



# 未組織地域でのクラブづくり

山形県 おおくらむら 大蔵村老人クラブ連合会

●クラブ数 11

●会員数 469名 (男性179名、女性290名)



山形県  
大蔵村

## 未組織地域で高齢者との懇談会 機会あるごとに声かけ

平成25年当時は九つの単位クラブでした。翌26年に連合会創立50周年を控え、未組織地域に対してクラブ結成を呼びかけることを役員会で話し合い、取り組むこととしました。まず村社会福祉協議会と連携して地域に出向き、懇談会を行いました。懇談会には、これまで社協が実施していた健康教室などに参加していた高齢者に呼びかけました。そして機会あるごとに役員を中心についでの声かけを心がけ、老人クラブをPRしました。



「ふれ愛の旅」にて

また、長年実施している会員の親睦交流を兼ねた連合会主催の旅行「ふれ愛の旅」では、参加対象者を会員以外の方にも広げて、旅行への参加をきっかけに会員加入を呼びかけました。さらに、老人クラブのイメージアップを図

大蔵村は山形県の北部、最上地方に位置し、村の南部を月山などに連なる山々に囲まれた、人口約3300名の小さな村です。冬は雪深く豪雪地として知られていますが、豊富な雪解け水が山々や田畑を潤して、自然の恵みをたっぷり受けて実る山菜や農作物は村の自慢です。村の総面積の85%は山林で、集落は点在しており、高齢化率は36%です。厳しい生活環境ではありますが、住み慣れた地域で元気に暮らし続けるために、老人クラブの存在意義や魅力を再認識して会員増強につなげ、生きがい・仲間づくりの輪を広げる取り組みの継続を目指しています。

ありますが増えてきました。私たちの取り組みに対して、「100万人会員増強運動特別賞」をいただいたことは、大変名誉なありがたいことと感謝しております。

## 公式ワナゲによる仲間づくりの輪

平成27年、山形県で盛んに行われていた公式ワナゲの普及に取り組んだことも、仲間づくりの輪を広めることにつながりました。公式ワナゲは、投輪の作戦を立てたり点数計算を行ったり、よいフォームは身体全体のバランスを使ったりと、ほどよい刺激が好評で、単位クラブごと熱心に練習に励み、クラブ内の結束が深まったようです。

その成果を発揮する場として、翌28年には村公式ワナゲ交流大会を実施して、以降毎年開催しています。村大会優勝チームは、県老連主催の交流大会への出場権を得ることも励みとなっています。

女性会員は全会員の6割を占めますが、女性会長は1クラブと大蔵村の女性は控えめです。しかしながら、女性が元気なクラブの活動は豊かです。役員のなり手がなく、クラブの存続危機や新設に至らないといった実情がある中、女性の力や特性を活かすサポートづ



熱気に満ちた村公式ワナゲ交流大会

くりについても考えていきたいと思っています。村には、まだ未組織地域が残っています。今後も呼びかけを続けて、村の全地域にクラブが組織化されることを目指します。

(会長 齋藤義廣)



リーダー研修での脳活レクリエーション